

2022年(令和4年)6月オホーツク管内倒産集計

2022年7月4日

株式会社 東亜リサーチ

北見市北6条西5丁目1番地

Tel (0157) 23 - 6288

Fax (0157) 24 - 1033

6か月ぶりの発生 倒産動向の潮目に変化の可能性

発生件数1件、負債総額2,356万円

■前月比	件数	1件増加(2022年5月	0件)
	負債総額	2,356万円増加(0円)
<hr/>			
■前年同月比	件数	同数(2021年6月	1件)
	負債総額	2億44万円減少(2億2,400万円)

2022年6月の発生状況

2022年6月のオホーツク管内における倒産整理企業(負債総額1,000万円以上・内整理を含む)は発生が1件、負債総額は2,356万円だった。これは発生がなかった前月と比べると皆増。前年同月比では件数は同数だが、負債総額では2億44万円の減少となった。

当月の1件は(有)プラザカワイ(遠軽町・不動産賃貸業)で、所有飲食店ビルの老朽化やコロナ禍によるテナント減少から、破産開始決定を受けたものであり、昨年12月以来、6か月ぶりの発生となった。

過去5年間の6月の発生状況を見てみると17年2件、18年2件、19年5件、20年ゼロ件、21年1件の推移で、平均発生件数が2.0件、同負債総額は1億5,140万円であるが、今年は1件の発生に止まり、件数、負債総額ともに平均値を下回った。

2022年1～6月の発生累計

今年1～6月の累計発生件数は1件、負債総額で2,356万円となった。これは前年同期間と比較して件数で7件、負債総額で7億9,744万円の大幅な減少。過去5年間の発生推移は【右・表】の通りで、平均発生件数は9.8件、同負債総額は8億9,278万円。今年は5月まで倒産がなく、6月に入り初めて発生したこともあり、過去5年は言うまでもなく、倒産集計を取り始めて以来、最低の件数、負債総額となっている。

過去5年間と今年1～6月の件数・負債額

年 別	件 数	負 債 額
2017年	15件	6億6,700万円
2018年	10件	11億4,400万円
2019年	9件	6億4,590万円
2020年	7件	11億8,600万円
2021年	8件	8億2,100万円
2022年	1件	2,356万円

今後の見通しと問題点

今年上半期(1月～6月)の倒産は1件で負債総額は2,356万円。コロナ対策資金等の効果もあって倒産は抑制されており、当社が集計を取り始めて以来、最低の件数、負債総額となっている。

新型コロナ下での行動制限が無くなり、観光・飲食業は徐々に回復しており、夏の観光シーズンや祭りなどのイベント再開などによって7月以降の回復も予測されているが、コロナ前の業績水準には程遠いなかで、膨らんだ借入金を抱える管内企業は少なくない。そうした懸念材料があるなか、今度はロシア・ウクライナ情勢を背景とした原材料価格の高騰、円安という新たな問題が企業を直撃しており、今後経営状態を一段と悪化させる懸念がある。

これまで抑制されてきた管内倒産状況であるが、6か月ぶりに今年初めての倒産が発生。ここに来てコロナ対策の資金繰り支援効果が薄れつつあるなか、原材料価格高騰など新たな懸念材料が加わり、倒産は抑制から増加へと潮目が変わる可能性がある。

